様式第３号

令和３年度　学校経営報告書（自己評価）

| 学校番号 | 19 | 学 校 名 | 静岡県立天竜特別支援学校 | 校 長 名 | 髙橋　定裕 |
|---|---|---|---|---|---|

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）
評価　Ａ：十分目標を達成することができた　　Ｃ：あまり目標を達成することができなかった
　　Ｂ：おおむね目標を達成することができた　　Ｄ：ほとんど目標を達成することができなかった

| | 取組目標 | 成果目標 | 達成状況 | 評価 | 成果○　と　課題・ |
|---|---|---|---|---|---|
| ア　安全安心 | **災害・感染症予防等へ適切で迅速に対応する。** | ・学校再開計画について計画的に研修を行い、研修後自分の役割を理解した教職員 80% | 実施後アンケートより 98% | A | ○安否確認研修は５月に行ったことで早めに確認が行えた。<br>○防災研修では、防災対策班ごとに実践活動を考え行えた。 |
| | | ・学校安全計画、学校保健計画に基づいた防災教育・保健教育を実施できた教員 90% | 担当者アンケートより 100% | A | ○防災教育、保健教育などの関連を意識した学級活動・ホームルーム活動の年間計画に位置付け、実施できた。<br>○防災教育、保健教育の内容を学級活動・LHR の年間計画に位置付け実施できた。<br>・夏休み直後に第３回避難訓練があるため、職員防災研修の実施時期を夏休み前半にしたい。 |
| | **人権意識を高くもち、道徳教育を推進する。** | ・人権月間や職員人権研修を通して、人権について理解を深めた教員 90%<br>・学校生活全般において人権教育の実践を進めることができた教員 90% | 職員アンケートより 100% | A | ○e ラーニングでの職員人権研修を実施した。<br>○人権教育、生活指導などの関連を意識した学級活動・ホームルーム活動の年間計画を作成した。 |
| | | ・よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳教育全体計画に基づいて道徳教育や特別の教科道徳の指導を行うことができた教員 80% | 道徳教育に関するアンケートより 93% | A | ○外部講師を招聘し道徳科授業づくりの研修を実施し、授業展開の工夫について理解が深まった。<br>○道徳教育全体計画に基づいた学校教育活動全般における道徳教育について、教科部会、表れの共有、指導案への道徳教育の視点の記入等を通して、意識を高め、実践に生かすことができた。 |
| イ　指導 | **病弱教育の専門性の向上を図る。** | ・生徒の自己理解を促し、各自の目標に向かった学びができる教育課程編成に関わった教員 100% | 学部評価より 100% | A | ○生徒の実態を改めて見直し、学部の全職員が積極的に教育課程の編成に関わることができた。 |

様式第３号

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 充実 | **（個別の教育支援計画、個別の指導計画に基づいた授業実践）** | ・キャリアステージ対応研修の項目を80%以上チェックできた教職員100% | キャリアステージアンケートより69% | C | ○ほぼすべての教員が、自身のキャリアステージに対応した研修会に参加できた。<br>・過去にも出てきた課題であるが、校内研修計画の内容の精選が必要であり、分かりやすく提示しなければいけなかった。 |
| | | ・整理図をもとに適切な目標と指導内容を設定し、児童生徒の成長を促す実践ができた教員100% | 学校評価より97.3% | B | ○児童生徒のニーズに応じた適切な指導・支援のあり方を複数の視点で検討しながら実践することができた。<br>・より能率的な書類作成や記載内容の精選を図る。 |
| | | ・児童生徒の目標達成のために、ICT機器や教材教具等を効果的に活用した環境を設定し、指導や支援を実践した教員100% | 学校評価より<br>97.3% | B | ○ICT機器の活用の幅が広がり、効果的に活用する場面が増えた。<br>○ICT機器の利用を含め、教材教具等の効果的な活用方法を検討し、指導や支援を行うことができた。<br>・ネットワーク環境の不安定な場所があり、現状の環境で工夫できることなどを検討・提案する。<br>・児童生徒のニーズや状況にいっそう応じた指導方法の工夫や教材の提供等を行う。 |
| | | ・行動観察やアセスメント等をもとに、児童生徒に合った学び方を提案し、学びに生かすことができた教員80% | 学校評価より<br>97.3% | A | ○客観的なアセスメントと複数の視点による見立てから、児童生徒の実態を押さえ、指導、支援につなげることが<br>○ICT機器を児童生徒に合った学び方の手段として活用し、学びに生かすことができた。 |
| | | ・一人一授業研修の実施、事後研修への参加を通して、「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善(機器の活用を含む)を行った教員90% | 学校評価より<br>97.3% | A | ○掲示板やアンケートを活用することで、学部内での振り返りに留まらず、他学部とも意見を交わし合い、授業改善に生かすことができた。<br>・各学部の実態が異なるため、一人一授業研修のやり方や、研修の深め方については改めて検討が必要になった。<br>・一人一台端末の設定が遅れ、一人一授業研修で端末を利用できなかった。来年度は一人一台端末の活用を授業改善に生かせるよう取り組みたい。 |

様式第３号

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| ウ　地域連携 | 個別の教育支援計画に基づいた連携体制を確立する。 | ・個別の教育支援計画を基に、本校在籍前後の学校や他機関、保護者に支援や助言をし、連携できた教員 80% | 学校評価より 97.3%<br><br>プロフィールカード（個別の教育支援計画別表）が役立ったと答えた事業所 87%（13%無回答） | A<br><br>B | ○新書式での作成や運営を進めることができた。<br>○児童生徒や保護者の願いを踏まえながら、個別の教育支援計画やプロフィールカード、移行支援計画を作成することができた。また、それらを基に保護者や関係機関と支援内容の共有ができた。<br>○実習先と実態を共通理解し、計画通り産業現場等における実習を実施した。<br>・職員の就労支援やサービス利用についての理解を深め、関係機関との連携を深めたい。 |
| | みゅうの丘との連携と協同学習を充実させる。 | ・必要なときに作業部会を行い、みゅうの丘の連携が深まったと感じた担当者 100% | 担当者評価より 100% | B | ○新型コロナウイルス対応について、感染状況を踏まえて参加人数や環境整備を事前に確認し、安全に実習や見学が実施できた。 |
| | | ・みゅうの丘を活用した教育活動を行った教員 100% | 学校評価より 91.3% | B | ○児童生徒の安全を最優先に感染防止対策を施し、できる方法や内容で行うことができた。 |
| エ　業務改善 | 一人一人が責任をもち効率的な業務の遂行ができる。 | ・自分が設定した時刻に 80%以上退勤した教職員 100% | 10 月:97%<br>11 月:93%<br>12 月:98%<br>1 月:96% | B | ○退勤時刻を設定することで見通しをもって業務を行う姿が見られ、時刻を意識できるようになってきた。<br>・効率的な業務について、教職員一人一人が工夫できる点を探し実行できるようにしたい。 |
| | | ・行事等の活動や手続き等の見直しを考えたり、提案したりした教職員 60% | 学校評価より 94.6% | A | ○社会の変化・情勢に合わせて行事等の目的や内容を全職員で再考することができた。<br>・児童生徒の実態や目的に合った活動計画であるかという観点を大切に見直しを続ける必要がある。 |
| | | ・各種マニュアルを参考にすることで、業務がスムーズになったと感じる教職員 80% | 学校評価より 100% | A | ○マニュアルを参考に業務を遂行したり、自身で確認をすることでミスを減らしたりすることができた。 |